



がんとうまく付き合う方法

—がん相談支援センターの役割—

企画・制作/徳島新聞社 営業局

出席者



橋本 久美子氏
聖路加国際病院がん相談支援センター
アシスタントナースマネージャー



久米 博子氏
徳島大学病院院長特別補佐
患者支援センター副センター長



三木 幸代氏
徳島大学病院がん診療連携センター
看護部長



丹黒 章氏
徳島大学大学院
胸部・内分泌・腫瘍外科教授

日本は世界一の がん大国!

【丹黒】1981年以降、がんはわが国の死因第1位であり、2018年のがんにかかった人はおよそ101万3,600人、死亡した人は379,900人で、3割以上の方ががんになつてしまつていいます。がんの治療には手術や抗がん剤、放射線治療がありますが、どの治療も痛みや苦しみを伴います。さらに、がんや治療に対する不安や経済的負担に対する心配など、患者だけでなく家族や友人も巻き込んで苦しむことになりま

がんのことを知り、 正しい対処方法を!

【久米】がんの研究が進み、治療効果も日々よくなつており、8月に発表された5年生存率は2011年の49.2%から66.1%に上昇しています。しかし、次々に登場する新薬も決して魔法の薬ではありません。効果には個人差があり副作用も多く、薬剤費はびっくりするほど高額で治療費は増加の一途です。経済的負担や副作用、家庭や会社での悩みのQOL(生活の質)を含めた患者の治療満足度はあまり改善されていないのが現状です。2017年に改定された第3次がん対策推進基本計画でもがん患者とその家族に対して悩みや不安をなくし上げられる相談支援体制を実現することが

徳島大学病院患者 支援センターの活動

【久米】徳島大学病院は高度な医療を提供する「特定機能病院」であるとともに、徳島県のがん診療に対して他病院と連携してリハビリテーションを推進する「都道府県がん診療連携拠点病院」です。徳島大学病院では、1999年から患者さんのQOLの向上を目的とした相談窓口である継続診療・看護相談室を設置しています。2004年からMSW(医療ソーシャルワーカー)も加わり、地域連携業務も開始して地域医療連携センターとなりました。2015年からは「患者支援センター」として患者・家族の保健・医療・福祉に関わる総合相談と地域連携を行っています。専任のMSW、看護師、事務職員が医師等と連携を取りチームで患者さん(と家族の相談)に対応しています。診療に関わる相談や保



【がん相談支援センター】 TEL:088-633-9438
開設時間:月曜日～金曜日(祝日を除く)8時30分～17時
徳島がん対策センター http://www.toku-gantaisaku.jp/
徳島大学病院がん診療連携センター http://www.tokudai-ganrenkei.jp/



【患者支援センター】 TEL:088-633-9107
開設時間:月曜日～金曜日(祝日を除く)8時30分～17時まで

がん相談支援センター の活動

【司会】がん相談支援センターでは、どのような相談に対応しているのでしょうか?

【三木】がん相談支援センターは、がんに関するさまざまな相談に対応しているがん相談窓口です。全国すべてのがん診療連携拠点病院などに設置されており、さまざまな無料で利用できる情報や意思決定支援をさせていただきます。がんに関する不安や悩みについて、患者さんがどのようなことを大切にしているかを伺いながら

聖路加国際病院 患者サポートプログラム

Pink Ring 若年性乳がん患者さんのためのサポートグループ

マミキャン Ring 妊娠・子育て中のがん患者さんのためのサポートグループ
mammy! can(Cancer)do!

Beauty Ring 女性ががん治療に伴う外見変化に対する Social Beauty Care

シェイプアップ Ring 乳がん女性のための運動と栄養指導、および気持ちの持ち方によるシェイプアッププログラム

おさいふ Ring がんの治療とお金について学び人生のプランを考えるグループ

リフレ Ring 化学療法を受ける方へのヨガを用いたリフレッシュプログラム

「リング」とは、輪
みんなとつながり社会につながるという
思いを込めています

聖路加国際病院の 取り組み

【丹黒】がんの治療は従来、手術が第一選択でした。今も手術で切り取ることが期待できます。手術後のがんの治療には放射線治療や抗がん剤があり、この3つの治療を上手に使い分け、組み合わせることでがんを治し、再発させないことが目標ですが、医学の進歩とともに年々画期的な新薬が登場し、治療成績も向上しています。しかし、飲んですぐに治るような魔法の薬はありません。と薬も高価で、治療に時間がかかります。身体的だけでなく、精神的、経済的苦痛を伴います。【司会】本日はゲストで来られている聖路加国際病院がん相談支援センターの橋本久美子看護師に聖路加国際病院の取り組みをお伺いしたいと思います。

【橋本】聖路加国際病院のがん相談支援センターは、がん相談支援センターでも相談が一番多いのはがんの治療や症状、副作用に関するもので、不安や精神的苦痛、医療費や社会保障制度に関する相談も増えています。【司会】聖路加国際病院では「おさいふ Ring」という取り組みがあると聞きました。

【橋本】効果のある分子標的治療薬などの新薬が登場し、がん治療はますます長期化し費用も高額になってきています。寿命がのびても治療はくらくらのか、いつまで続けなければならぬのか、将来に対する不安を持つ人が増えています。そうした悩みを持つ人々をサポートするために、2015年7月からおさいふ Ringです。ファイナンスプランナー、社会保険労務士、看護師、MSWが、それぞれの抱えるがん治療とお金の問題をサポートする取り組みです。「医療費はなんとかなるが、住居ローンや教育費、生活費が捻出できない」「ホルモン治療中だけ、なんとなく職場にいづらくなってきた」「貯金がない」「治療費は自分で、運用も含めて何かいい方法はないか」など、今は経済的に追い詰められてはいなくても、将来に漠然とした不安を抱えている人が多く、乳がんの場合、年齢が若く、独身で自身の収入で親御さんの生活を支えている場合も多く、病気のことを誰にも伝えられず悩んでいる方もいます。

【久米】徳島大学病院患者支援センターでも、病気を治すだけでなく、全人的なケアを目指して専任の医療ソーシャルワーカー、看護師、事務職員が医師、看護師と連携を取り、医療福祉、看護、在宅療養、在宅支援、難病やがんについての相談に対応し、最適な連携施設も紹介しています。

【橋本】がん相談支援センターは、がん相談支援センターでも相談が一番多いのはがんの治療や症状、副作用に関するもので、不安や精神的苦痛、医療費や社会保障制度に関する相談も増えています。【司会】聖路加国際病院では「おさいふ Ring」という取り組みがあると聞きました。

【橋本】効果のある分子標的治療薬などの新薬が登場し、がん治療はますます長期化し費用も高額になってきています。寿命がのびても治療はくらくらのか、いつまで続けなければならぬのか、将来に対する不安を持つ人が増えています。そうした悩みを持つ人々をサポートするために、2015年7月からおさいふ Ringです。ファイナンスプランナー、社会保険労務士、看護師、MSWが、それぞれの抱えるがん治療とお金の問題をサポートする取り組みです。「医療費はなんとかなるが、住居ローンや教育費、生活費が捻出できない」「ホルモン治療中だけ、なんとなく職場にいづらくなってきた」「貯金がない」「治療費は自分で、運用も含めて何かいい方法はないか」など、今は経済的に追い詰められてはいなくても、将来に漠然とした不安を抱えている人が多く、乳がんの場合、年齢が若く、独身で自身の収入で親御さんの生活を支えている場合も多く、病気のことを誰にも伝えられず悩んでいる方もいます。

【久米】徳島大学病院患者支援センターでも、病気を治すだけでなく、全人的なケアを目指して専任の医療ソーシャルワーカー、看護師、事務職員が医師、看護師と連携を取り、医療福祉、看護、在宅療養、在宅支援、難病やがんについての相談に対応し、最適な連携施設も紹介しています。

【橋本】がん相談支援センターは、がん相談支援センターでも相談が一番多いのはがんの治療や症状、副作用に関するもので、不安や精神的苦痛、医療費や社会保障制度に関する相談も増えています。【司会】聖路加国際病院では「おさいふ Ring」という取り組みがあると聞きました。

【橋本】効果のある分子標的治療薬などの新薬が登場し、がん治療はますます長期化し費用も高額になってきています。寿命がのびても治療はくらくらのか、いつまで続けなければならぬのか、将来に対する不安を持つ人が増えています。そうした悩みを持つ人々をサポートするために、2015年7月からおさいふ Ringです。ファイナンスプランナー、社会保険労務士、看護師、MSWが、それぞれの抱えるがん治療とお金の問題をサポートする取り組みです。「医療費はなんとかなるが、住居ローンや教育費、生活費が捻出できない」「ホルモン治療中だけ、なんとなく職場にいづらくなってきた」「貯金がない」「治療費は自分で、運用も含めて何かいい方法はないか」など、今は経済的に追い詰められてはいなくても、将来に漠然とした不安を抱えている人が多く、乳がんの場合、年齢が若く、独身で自身の収入で親御さんの生活を支えている場合も多く、病気のことを誰にも伝えられず悩んでいる方もいます。

多くのがんは早期に発見すれば助かる病気です。特に無症状のがんを発見することが、できる検査はわが国のがん対策の上で最も重要で、乳がんを例にとると、すでに欧米諸国では国をあげて乳がん対策が行われており、乳がん検診受診率は70%と高率で乳がん死亡率は1988年以降低下しています。現在の乳がん検診受診率は、現在、日本は低い状態です。乳がんは日本女性に多い病気です。乳がんは2005年から乳がん早期発見のための啓発運動を展開し、NPO法人徳島乳がんネットワークを設立し、乳がん検診を行う医師や看護師、放射線技術者の育成と検診技術向上のための講習や勉強会を継続して行い、がんに対する患者さんや市民の知識や意識向上のための啓発集会を開催してきました。本年は国際ロータリー第2670地区の支援で、本日17時からがんを克服し、仕事を続けながらがん患者・家族の支援活動にも熱心な女優の原千晶さん、モデルの園田マイコさんをお招きし、阿波おどり会館においてピンクリボン集会を開催します(下記)。

【久米】徳島大学病院患者支援センターでも、病気を治すだけでなく、全人的なケアを目指して専任の医療ソーシャルワーカー、看護師、事務職員が医師、看護師と連携を取り、医療福祉、看護、在宅療養、在宅支援、難病やがんについての相談に対応し、最適な連携施設も紹介しています。

【橋本】がん相談支援センターは、がん相談支援センターでも相談が一番多いのはがんの治療や症状、副作用に関するもので、不安や精神的苦痛、医療費や社会保障制度に関する相談も増えています。【司会】聖路加国際病院では「おさいふ Ring」という取り組みがあると聞きました。

国際ロータリー第2670地区 2019-2020年度 地区大会記念事業
ピンクリボンとは、乳がんの正しい知識を広め、乳がん検診の早期受診を推進することなどを目的として行われる世界規模の啓発キャンペーン

徳島ピンクリボン集会 in 阿波おどり会館

とき **9月28日(土)**
会場 **阿波おどり会館** 徳島市新町橋 2丁目20
17:00~
●テープカット(19:25~)点灯式あいさつ
徳島大学大学院 胸部・内分泌・腫瘍外科教授
ピンクリボン集会実行委員長 丹黒 章



当日は阿波おどり会館が
ピンクにライトアップ!

座談会 ゲスト 女優 **原千晶さん**

座談会 ゲスト モデル **園田マイコさん**

本日開催
阿波踊り体験(殿様連)
20:00~ 有料

特別講演 **がんの陽子線療法**
メディボリス国際陽子線治療センター長 荻野 尚 先生

座談会 **がんを乗り越えて仕事を続ける喜び**
当日は、聖路加国際病院 がん相談支援室 橋本久美子看護師も参加予定!

阿波踊り体験(殿様連)
20:00~ 有料